

「カンガルー」 生田修平

大阪、東淀川駅前で一杯飲み屋に入った。

カウンターのみで4～5人がやっと入れる小さな店だった。

奥に客が一人だけいた。茶色い毛皮のコートを着ていたが、よく見るとカンガルーだった。

カンガルーは黄色い飲み物を飲んでいて、さんぴん茶割りだという。私もそれを注文した。

私はカンガルーの隣の席に座った。

カンガルーは、後退（後ずさり）ができる人間をうらやましいと繰り返した。

このカンガルーはサッカーをするらしいが、いつも背後を狙われる。後ろに行くには、一度振り向いてから戻らなくてはならず、追いつかないという。攻撃に転じ、ゴール前まで深く突っ込み過ぎる時もポジションの修正が容易でない、と。

「人間がうらやましい。少しでいいから後ずさりしたい」とカンガルーは言う。

「まあ、後退ばかりしている人間もいるけどね」と私は言い、将棋の香車（やり）が頭をよぎった。「将棋の香車も後ろに進めないが、友達か？」と聞いた。

カンガルーはこう言った。「確かに香車とは仲がいい。ただ、私の前への進み方は、香車のように直線的ではなく、桂馬のような動き方をする。後ろに進めない桂馬といった方がよいだろう。桂馬とはもっと仲がいい。」

意気投合した私たちはスナックへ行った。

ホステスたちは興味津々で、カンガルーはモテモテだった。袋を触られたりしていた。

カンガルーもいい気分になったようで、今度はカンガルーの優位性を語り始めた。

「人間はお母さんのお腹から産まれた日を誕生日として祝うが、カンガルーは誕生日に加えて、はじめて袋から出た日を、出所記念日(1)として祝う。無袋類(2)の人間には出所記念はないだろう」。

それからカンガルーはカラオケを歌い、ホステスとダンスを踊った。ダンスでは、カンガルーは後ろのステップができないので、相手のホステスを壁まで押し込み、そこからターンをする風変わったダンスになった。

この時もカンガルーは「人間がうらやましい。少しでいいから後ずさりしたい」とこぼした。

果たして、カンガルーはかなりへろへろに酔っ払った。時間を見ると午前2時だった。

タクシーを呼ぼうとしたが、カンガルーは近いので歩くと言った。

私たちは店を出た。

泥酔状態のカンガルーは足元がおぼつかなく、真っ直ぐ前に進めない。

その時だった。

私はこの目ではっきり見た。

フラフラのカンガルーは、わずか2、3ステップであるが、後ずさりした。

「おい！今できたじゃないか！後ろのステップ！」

カンガルーがうらやましい。3つも記念日を持っている。お母さんのお腹から産まれた日、はじめて袋から出た日、そして、はじめて後ろに歩けた日。

註1：カンガルーの俗語で袋から出ることを出所という。

註2：人間はカンガルーのことを有袋類と知っているが、カンガルーは人間を無袋類と分類している。完